

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成27年度技術情報第20号 ナシの黒星病について (送付)

本年は、ナシ花芽りん片の黒星病感染率が過去3か年で最も高く、りん片脱落后に感染が拡大する恐れがあるため、定期的な予防散布に努めてください。

平成27年度技術情報第20号

- 1 対象害虫 黒星病 (*Venturia nashicola* Tanaka et Yamamoto)
- 2 対象作物 ナシ
- 3 発生地域 県本土
- 4 発生量 多

5 情報の根拠

- (1) 本県での主な第1次伝染源は、2月下旬～3月に発生する芽りん片の病斑（分生子）である。春先の降雨により、花芽基部、果梗等に伝搬する。
- (2) 花芽りん片の感染率は、2月に採取したナシ結果母枝の花芽りん片を顕微鏡下で観察し、黒星病の越冬病斑の有無により求めた。その結果、本年の感染率は、2.0%（前年1.2%、前々年0.8%）と過去3年間で最も高かった（図1、図2）。
- (3) 黒星病の発生が、全調査ほ場で毎年認められている（データ略）。また、前年5月は発病葉率と発病果率が高かった（図3）。
- (4) 気象庁の1か月予報では、平均気温は高く降水量が平年並みか多いとされ、感染に適する気象条件と予想される。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 感染は濡れが継続すること（20℃では9時間）で起こり、2～3週間の潜伏期間を経て発病する。
- (2) 特に感染しやすいのは、葉では発芽間もない時期で、果実では出蕾間もない時期である。
- (3) 防除は、りん片脱落后（2月下旬～3月）から新梢伸長期を重点に、約10～14日間隔で予防を重点に行う。また、農薬散布は、天気予報に留意し、降雨前に行う。
- (4) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性が異なる薬剤のローテーション散布を行う。

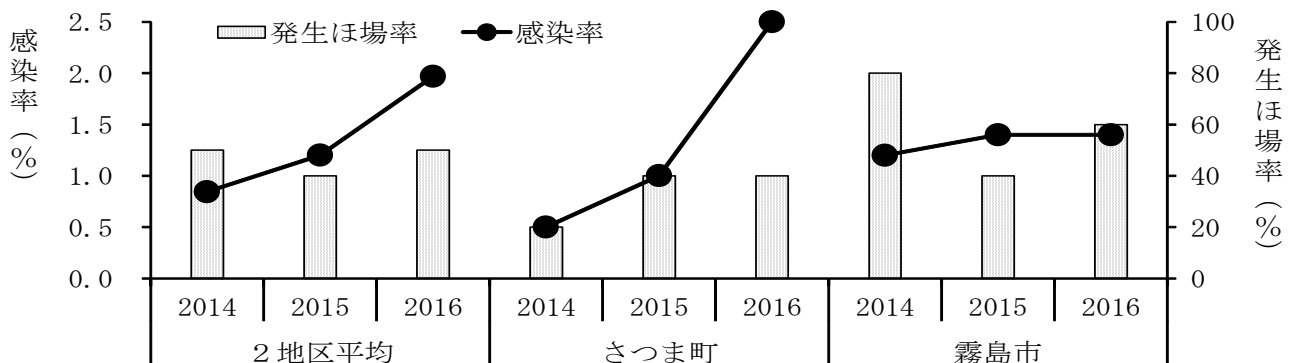


図1 2月の花芽りん片の黒星病感染率及び発生ほ場率

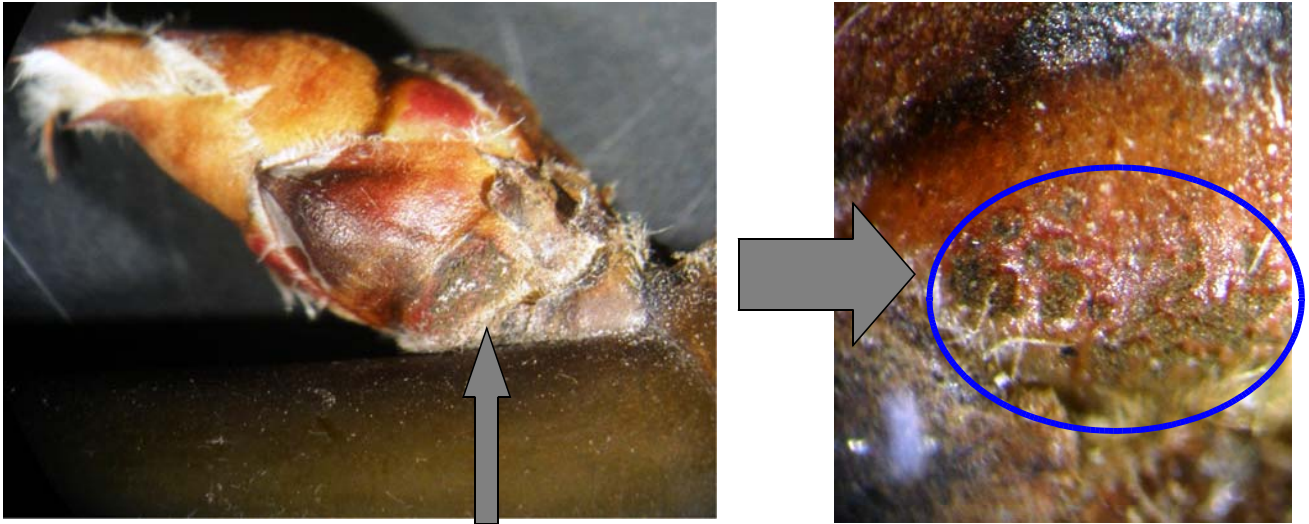


図2 花芽りん片の黒星病越冬病斑（左）と拡大図（右）

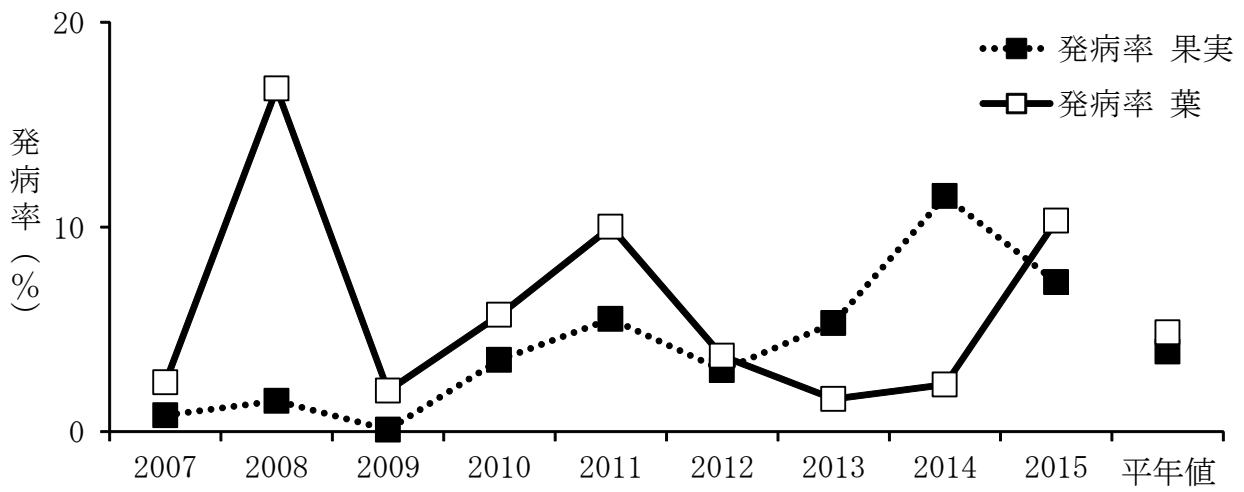


図3 5月の黒星病の発病率（葉・果実）

* 平年値は、葉では2005～2014年の10か年の平均，果実では2007～2014年の8年間の平均